

▼2013年1月4日北日本新聞に掲載されました。

## 世界遺産で書展 4月に中尊寺、 金澤さん(女流書家)復興願い

街の小さなギャラリーが世界遺産での書展をプロデューサー。富山市磯部町の香希(かき)画廊は4月、岩手県の中尊寺本堂で開かれる、ダウン症の書家、金澤翔子(しょうこ)さん(27)=東京=の個展を手掛ける。個展は、東日本大震災で犠牲になった人たちの鎮魂と復興の願いを伝えることがテーマ。同画廊代表取締役の宮島香世さん(54)ら関係者は、書を通じて被災者の「心の復興」に一役買うことを願っている。(文化部・高嶋昭英)

昨年のNHK大河ドラマ「平清盛」の題字を担当した金澤さんは、全国各地で個展を開いているほか、テレビ番組に出演するなど活動の幅を広げている。東日本大震災以降、金澤さんは被災地の子どもたちを励まそうと、岩手県や福島県などの学校を訪ねて「共に生きる」「希望光」などの揮毫(きごう)を行ってきた。

宮島さんを含めスタッフ3人で運営する香希画廊は、一昨年から金澤さんの富山での個展に携わっている。被災地に心を寄せる金澤さんに共感した宮島さんは昨年、中尊寺を訪問。山田俊和貫首に個展の開催を申し入れ、了承を得た。中尊寺を選んだ理由について宮島さんは「戦乱による犠牲者の鎮魂と平和への祈りをささげるため、建立された寺。金澤さんの思いと通じると考えた」と説明する。

個展の会期は4月11日～14日。同寺によると、本堂内で展覧会が開かれるのは2011年に寺を含む「平泉の文化遺産」が世界文化遺産に登録されて以降、初めてという。

昨年12月中旬、宮島さんと同画廊の今井希代子さん(47)が金澤さんの自宅で、展示内容の打ち合わせを行った。慈悲の力を信じる大切さを説く観音経の一節「念彼観音力(ねんびかんのりき)」を書いたびょうぶなどを展示するほか、岩手県出身で同寺にまつわる詩を残した宮沢賢治の「雨ニモマケズ」をしたためた新作も出品。会期中に席上揮毫も行う。

個展に向けた制作活動に励む金澤さんは「みんなに見てもらい、ハッピーになってもらいたい」と意気込む。金澤さんの母、泰子さん(68)は「震災を忘れない、という翔子のメッセージを伝える展覧会になれば」と話している。宮島さんは「富山からも多くの人が個展に足を運び、被災地の復興や被災者の気持ちに寄り添うきっかけになればうれしい」と話している。

### ◆中尊寺◆

平泉町にある天台宗の寺。12世紀初めに藤原清衡(きよひら)が、仏の教えによる平和な社会を目指して創立した。境内にある金色堂は建立当時から残る建物で、金箔(きんぱく)や蒔絵(まきえ)など豪華な装飾が施されている。岩手出身の宮沢賢治は金色堂についての詩を残しており、詩碑が境内に建てられている。



金澤さん(中央)を囲み、笑顔を浮かべる  
(左から)今井さん、母の泰子さん、宮島さん=東京・大田